

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成24年3月29日 (2012.3.29)

【公表番号】特表2010-508120(P2010-508120A)  
 【公表日】平成22年3月18日 (2010.3.18)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-011  
 【出願番号】特願2009-535367(P2009-535367)  
 【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

H 0 1 S 3/00 (2006.01)

A 6 1 B 18/20 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/00 5 1 1

H 0 1 S 3/00 A

A 6 1 F 9/00 5 1 2

A 6 1 B 17/36 3 5 0

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成24年2月9日 (2012.2.9)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 3 1  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 3 1】

図 8 は、検眼鏡で見ることができる、及び見ることができない損傷の混合を用いて、互いに隣接して配置しやすいパターンを生むことを示す。臨床パターン 1 0 4 は、外傷性治療を最小限に実行する、検眼鏡で見ることができない損傷 1 0 6（点線の輪郭）、及び次のパターンを位置合わせする基準マークを生むためのパターンの周縁部における、可視損傷 1 0 8（実線の輪郭）に対応する多様な損傷を含むことができる。これら可視損傷 1 0 8 は、例えば検眼鏡で見ることができない損傷 1 0 6 よりも、長いパルス幅、及び / 又は高い出力密度とすることができる。これらの基準マークは、多大な他の過度の傷をもたらすことなく、隣接パターンの精密な配置を可能にする。勿論、基準マークの他の構成又は配置が可能である。図 3 を参照して上に説明した線量測定パターン P の適用を介して、組織における可視の変化を生成するのに必要な線量パラメータの閾値を最初に決定することにより、可視の損傷 1 0 8 を生成するのに必要なシステム線量パラメータを決定することができる。